



県産森林認証材の供給体制の強化

経済産業部 森林・林業局

1

森林認証材の需要の高まり

2020東京オリンピック・パラリンピック

国立競技場などの関連施設で森林認証材を利用



<本県の豊富な森林認証材>

面積	7万ha
(FSC認証)	2位
(SGEC認証)	7位
(全体)	4位



※令和2年度データ



森林認証材を利用する機運の高まり

<SDGsの取組拡大>

○企業等を中心に、森林認証材を店舗や社屋に利用する動きが拡大

<ウッドショックの発生>

○外材の供給リスクの軽減のため、森林認証材を含めた県産材製品に転換する動き

<木材利用促進法の改正>

○脱炭素社会の実現のため、公共建築物に加え、民間建築物の木材利用を拡大



スターバックスコーヒー店舗
掛川細田店



野村不動産(株) オフィスビル
千代田区平河町

2

需要の変化に即納できる丸太の生産拠点づくり

店舗や社屋等では、短期間に大量の木材を利用

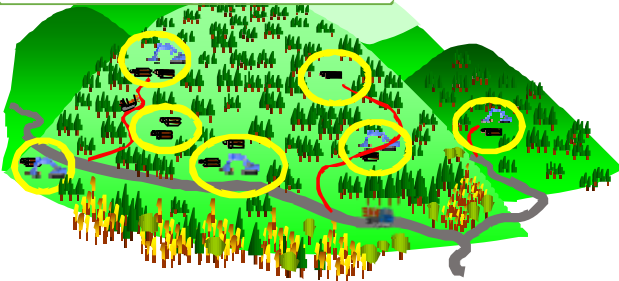
➔ **丸太の即納体制が必要**

従来の丸太生産体制 (部分最適・短期的最適)

- 多数の森林所有者の承諾が必要
- 路網を開設した後に伐採を開始するため、丸太の搬出には時間が必要

急な需要の増大に対し、丸太の生産地を速やかに確保できない

所有形態が小規模・分散化した森林で、個別に丸太を生産



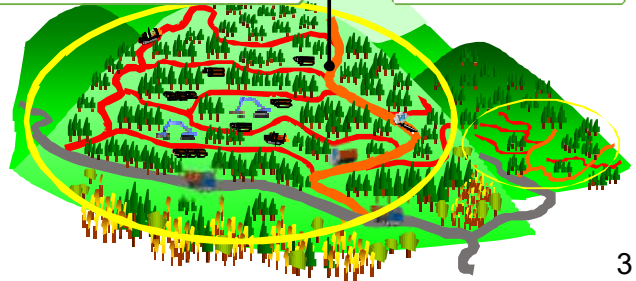
丸太の即納体制へ転換 (全体最適・中長期的最適)

- あらかじめ、丸太の生産に適した森林を取りまとめ、生産拠点づくり
- 路網や架線等の生産基盤を先行整備

急な需要の増大に対し、いつでも伐採に着手でき、丸太を搬出可能

丸太の生産が可能な森林を一定のエリアで確保

路網や架線等の先行整備



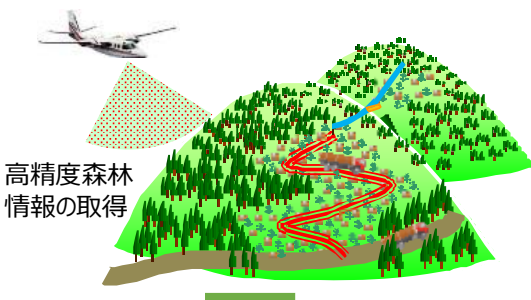
3

丸太の生産拠点づくりの流れ①

生産団地の設定と路網配備・丸太の生産計画の作成

生産団地の設定

○航空レーザ計測・解析の実施



生産適地の抽出

<抽出のポイント>

○資源量が豊富 (概ね500m³/ha以上)

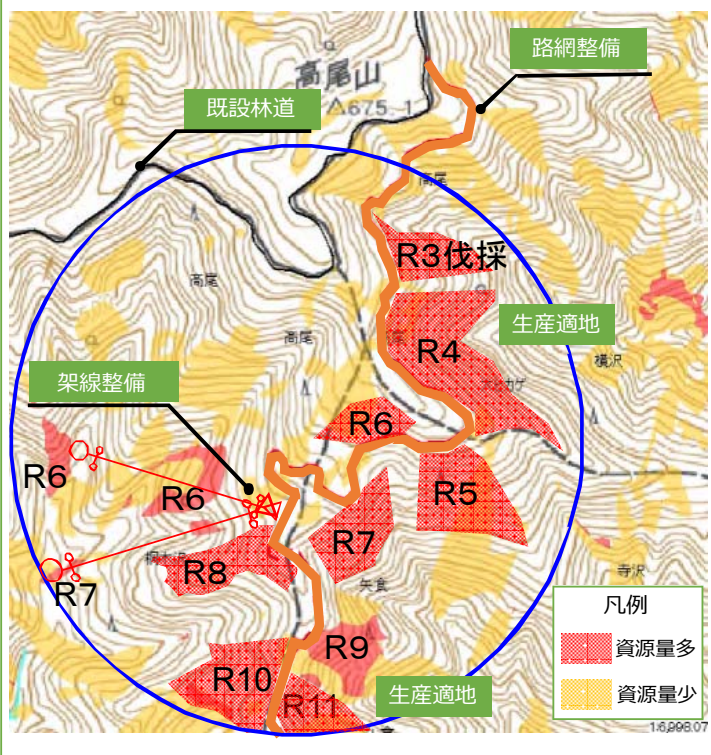
○傾斜が緩やか (30°未満)

生産団地の設定



生産団地で路網の配置、生産計画を作成

○路網作設ソフトで、自動でルートを設定



4

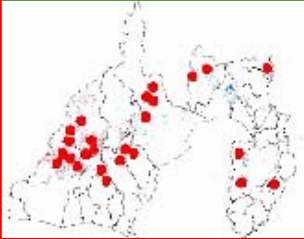
計画に基づく路網や架線の整備を支援

森林認証材供給基盤整備事業 (R3新規)

- 事業内容：丸太を大量かつ迅速に搬出する基幹的作業道や架線集材施設などの生産基盤の整備を支援
- 事業主体：林業経営体

生産団地の状況 (R3)

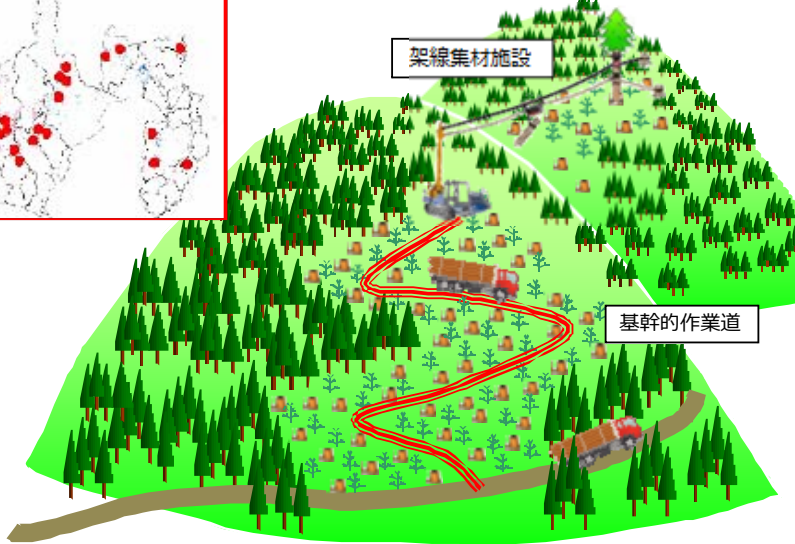
- 団地数：25地区
- 面積：20,252ha



いつでも伐採に着手できる森林

ストック量 **15** 万m³ 目標 (R4年度末)

ウッドショックのような需要変動にも対応



架線集材施設

道から離れた森林から丸太を搬出する施設の整備
R3見込：6,567m(11箇所)



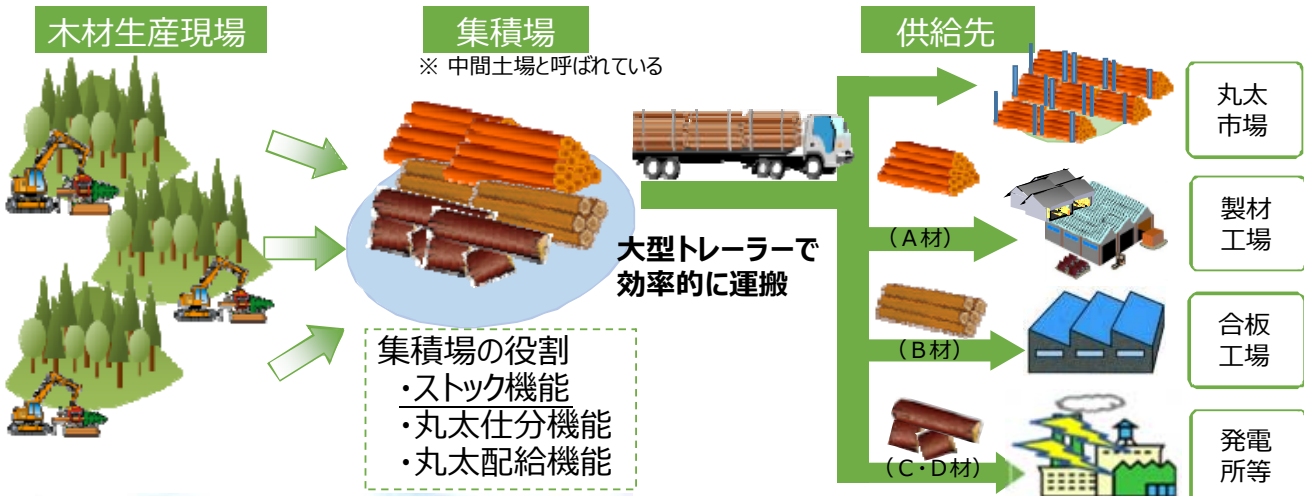
基幹的作業道

大型トラック (10t) が通行可能な路網の整備
R3見込：17,499m(15路線)



的確な丸太供給を可能にする在庫調整機能の確保

- 木材生産現場から搬出された丸太を集積
- 太さや長さ等の規格で仕訳けてストック
- ニーズに応じて、丸太の市場や合板工場へ大型トレーラーで効率的に運搬



小山町内の集積場

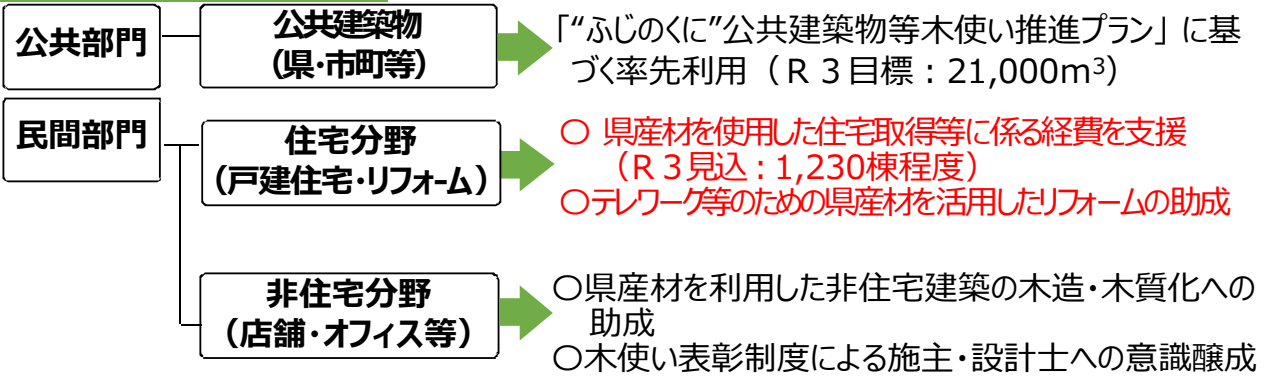


近年、伊豆地域における木材生産が増大

静岡県森林組合連合会が伊豆市大平に集積場の設置を計画中

県産材の需要喚起

様々な分野で利用促進



販路の開拓等

販路開拓マッチング支援

新たな需要を創出する事業者と連携する取組



展示会の開催支援

首都圏等で県内企業が県産材をPR



レガシー利用によるPR

選手村ビレッジプラザに提供した県産材を再利用

※現在、アイデア募集中



7

消費と生産の好循環による経済成長



8